

母として、
プロとして。

子どもたちの

可能性を

諦めない

今 年4月、成長が緩やかな子どもたちの学習や生活のサポートを行う会社「LIBEID(リベイド)」が設立された。代表を務めるのは、山田綾子さん。自身も双子を育てる母親で、これまでも「多胎サークルひなっこクラブ」や「託児・病児託児・病院通院サポート「コソダテラボ」」の運営をサポート。多彩な経験を生かし、「不安な気持ちを抱える子育て世代の力になりたい」と語る。



LIBEID
山田 綾子さん

【プロフィール】
1983年生まれ、秋田市在住。看護師として14年勤めた後、退職。自身の子育て経験を生かし、「多胎サークルひなっこクラブ」、託児・病児託児・病院通院サポート「コソダテラボ」などさまざまな支援活動に携わる。2020年4月「LIBEID」を設立、代表を務める

「こどもらぼ」に関するお問い合わせ
TEL.080-1806-1983(山田)またはlibeid_libeid@yahoo.co.jp
※秋田市北部地区に2020年6月末オープン

「多胎サークルの運営を始めた時に、どっちつかずにならなくて、14年間務めていた看護師を辞めました。私自身双子の子育てをしているので、多胎児を育てる困難を経験してきました。サークルで同じ境遇のママたちとつながり、たくさんのお話を聞くことで、私が経験してきた以上にママたちには本当にいろんな悩みがあることを知り、もった力になりたいと思うようになりました」と振り返る。

小児科と連携し、病児託児などを行うサポート団体「コソダテラボ」を立ち上げたのは3年前。たくさん子どもたちや保護者と関わることで、年々興味の幅が広がっていったという。「子育て中のママからの相談で多くを占めるのが、子どもの成長、発達障害の悩み。実は私自身も同じ悩みを抱えていたので、力になりたい」と強く思いました。ほかにも食物アレルギーや病児預かり…:サポートしたいことがどんどん出てきて、現在のシステムでやっていくには限界が見え始めてきた

んです。そこで、専門的な力を借りながらチームで展開すればよりニーズに沿った質の良いサービスを提供でき

るのではないかと考え、LIBEIDを立ち上げました」

小さいうちからサポート 少人数制で個々を伸ばす

LIBEIDは、幼稚園や小学校と並行して行うことができるプレスクール「こどもらぼ」を運営する。「成長がゆっくりで日常生活や集団生活に大変さを感じ、『もしかしたら発達障害かも…』というグレーゾーンの子どもたちの関わりが苦手だったり、気持ちに不安定だったたり、授業中そわそわしてしまうといった現状を抱えている子どもたちですね。発達障害だと認定されれば公的なサポートが受けられますが、グレーゾーンの子どもたちは行き場がないのが現状。小さいうちからしっかりサポートしてあげれば苦手意識がなくなり、成長過程も違います。そこで当社では今後、小児科や心療内科、学習塾とも連携し、少人数制で学習や生活をサポートしていきます」

マンツーマンではなく、少人数制という学習法が最大のポイント。「発達障害を抱える子どもたちは、誰かと関わるのがとても苦手。1対1ではなく少人数制にすることで、子どもたち自身で互いの関わり方を身に付けられます。コミュニケーションの中で、みん

なでルールやマナーを覚え合うことができるんです。もちろん無理強いせず、個々の特徴を捉えながらゆっくりと苦手意識を取り除くことから始めていきます。また、教育サポートは特別支援教諭免許を保有するスタッフが担当します。先生は、たくさん当事者の方々を見ていらっしやいますし、たくさん勉強もされています。同じ目線にたったサポートができるのではないのでしょうか」。

友人たちへの恩返し 感謝が最大の原動力

ほかにも、教員や児童福祉業界を目指す学生たちの実習の場の提供、発達障害を抱える子どもが住みやすい家づくりの提案など、プレスクールにとどまらない幅広い事業を展開する。山田さんは「地域で子どもを育てるということを目標に、これまでの経験を最大に生かしながら、地元の医療や教育、企業と連携して取り組んでいきたい」と未来を見据える。14年間の看護師キャリアと自身の子育て、これまでの多くの関わりを軸に、情熱はとどまるどころを知らない。「3年前に起業をした時、保育園時代のママ友やボランティア団体など、たくさんの人に助けてもらったんです。今はただただ、その人たちに恩返しをしたい、その気持ちだけが前を向く原動力です」と目を輝かせた。



Ayako Yamada
Interview
インタビュー